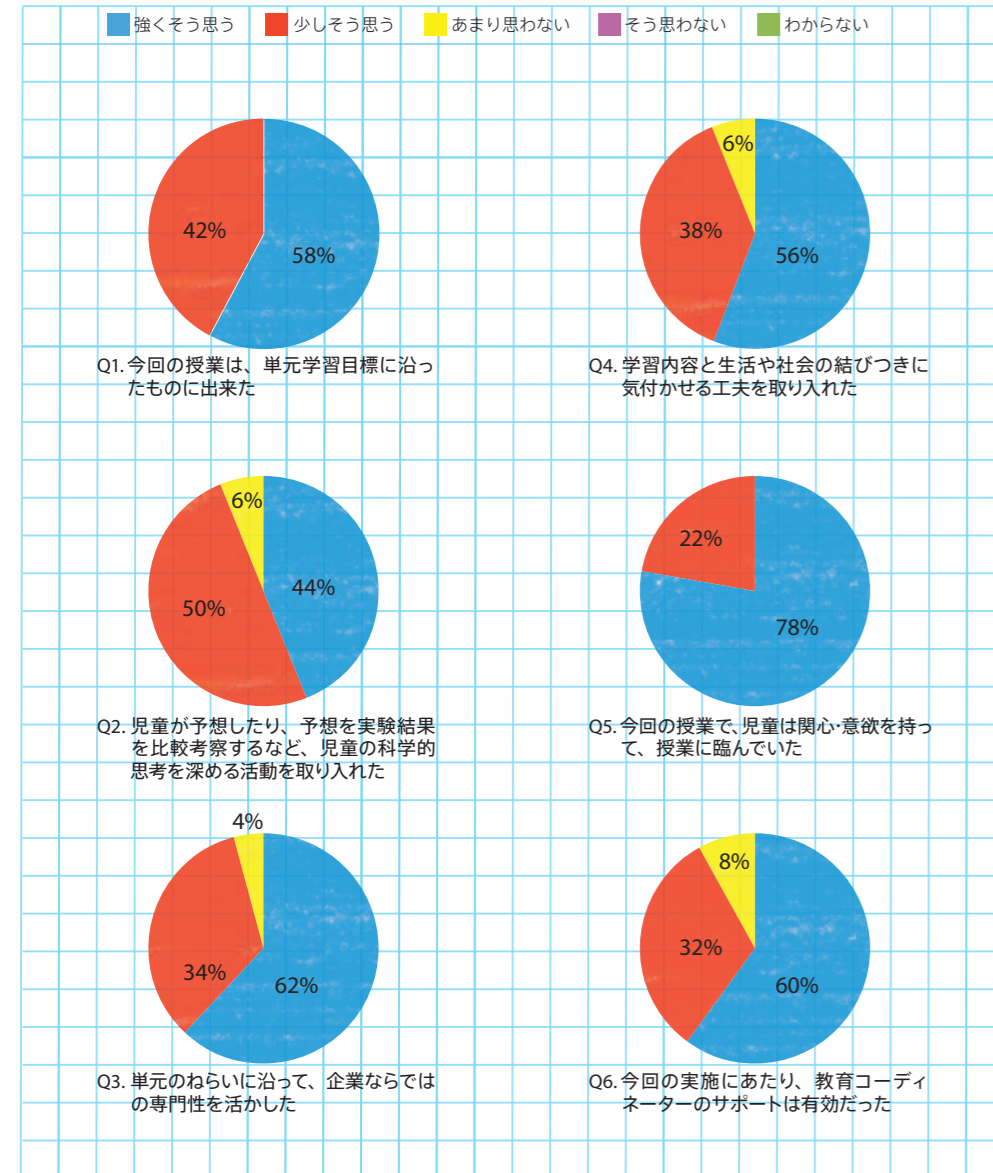


## 企業のアンケート結果



## 特別講師の声

### ■授業を実施してみて良かった点はどんなところですか。

#### ◎スキルアップにつながった

- ・教えることの難しさを実感できたり、またそれが自分の力にもなったと思う点。
- ・社内ではなかなかできない、プレゼンテーションや、教えるという立場になって、分かりやすく説明することがとても重要であることがわかった。何を伝えるのか明確にすることを、とても意識することができた。
- ・子どもの興味を理科へ向かせられるような授業にするため、内容やプレゼンテーションの構成を深く考えられたことが、今後の自分の仕事においても何かを計画するのに役立つと思うところ。
- ・当社の技術的な知識が深まった。
- ・技術系でない方への説明方法を見直すきっかけになった。

#### ◎自分の考え方が変わった

- ・自分が小学生のころを思いだし、現在の仕事の原点を見直すきっかけになった。
- ・企業以外の世界(学校)と触れる事ができ、考えの幅が広がった。
- ・理科離れの問題をよく耳にするが子ども達を見ていると別段悪い印象は受けず安心した。気持ちの面でも、環境の面でも良いものを残したいという気持ちが芽生えた。
- ・自社の特徴や強みを見直すきっかけになった。子どもの素直な言葉や態度に元気をもらった。

#### ◎他部署とのつながりができた

- ・スタッフで作る協力性など、業務ではもてない横のつながりができた。
- ・営業職からサポーターとして参加したが、自分とは知識や経験、話す内容も異なる研究所メンバーとディスカッション出来たことが有用だった。自分の仕事が最前線とすれば、研究所は最先端であり、より高い理想・目標の発見に役立った。
- ・参加者同士のコミュニケーションのきっかけになった。また、参加者のモチベーションアップにつながった。社会とつながり、社会に役立つことの喜びを味わうことができる。

### ■今回、授業を実施してみて、課題となった点はどんなところですか？

#### ◎社内の理解を得ること

- ・実施に向けての準備が、企業の社会的責任として通常業務と同程度に必要な業務であることを、上司をはじめ、まわりにもっと理解される必要がある。
- ・社内の協力、理解がまだ不十分なところ(部署)がある。
- ・CSR活動が社内ではあまり認知されていないので、今後アピールしていく必要がある。
- ・会社としての社会貢献の意義の共通理解を深めたい。
- ・まだまだ周りのプロジェクトに対しての理解が不足しているように感じる。政策やメディアを通じてよりアピールをして社会に浸透させて欲しい。

#### ◎時間の確保が難しかった

- ・他部署との連携をすることで、いろいろな面から授業を作りたかったが、打ち合わせをする時間が合わないなど、日程調整が難しかった。

#### ◎単元に沿い、小学生に伝わる講義作り

- ・「内容が簡単すぎた」との意見もあり、今後の参考にしたい。
- ・どのように進行し、説明するか。授業内容作成が大変だった。
- ・実験が多かったため、一つ一つ掘り下げる活動ができなかった。
- ・難しい原理を、小学生に理解できる言葉で簡潔に説明すること。

#### ◎人材の育成

- ・エリアごとに実施可能な人材を養成すること。
- ・社内ではプロジェクトの認知度は高く、関心をもつ人も多いが、積極的に参加を望む人がいない。

### ■企業講師派遣を実施する上で企業としてメリットはどのようなところにありますか？

#### ◎社会貢献になる

- ・当社のCSR活動の一環として、次世代育成や地域社会への貢献というメリットがある。
- ・子供たちが理科に興味をもつことで、理系の学生が増え、将来優秀な人材確保に繋がればと思う。

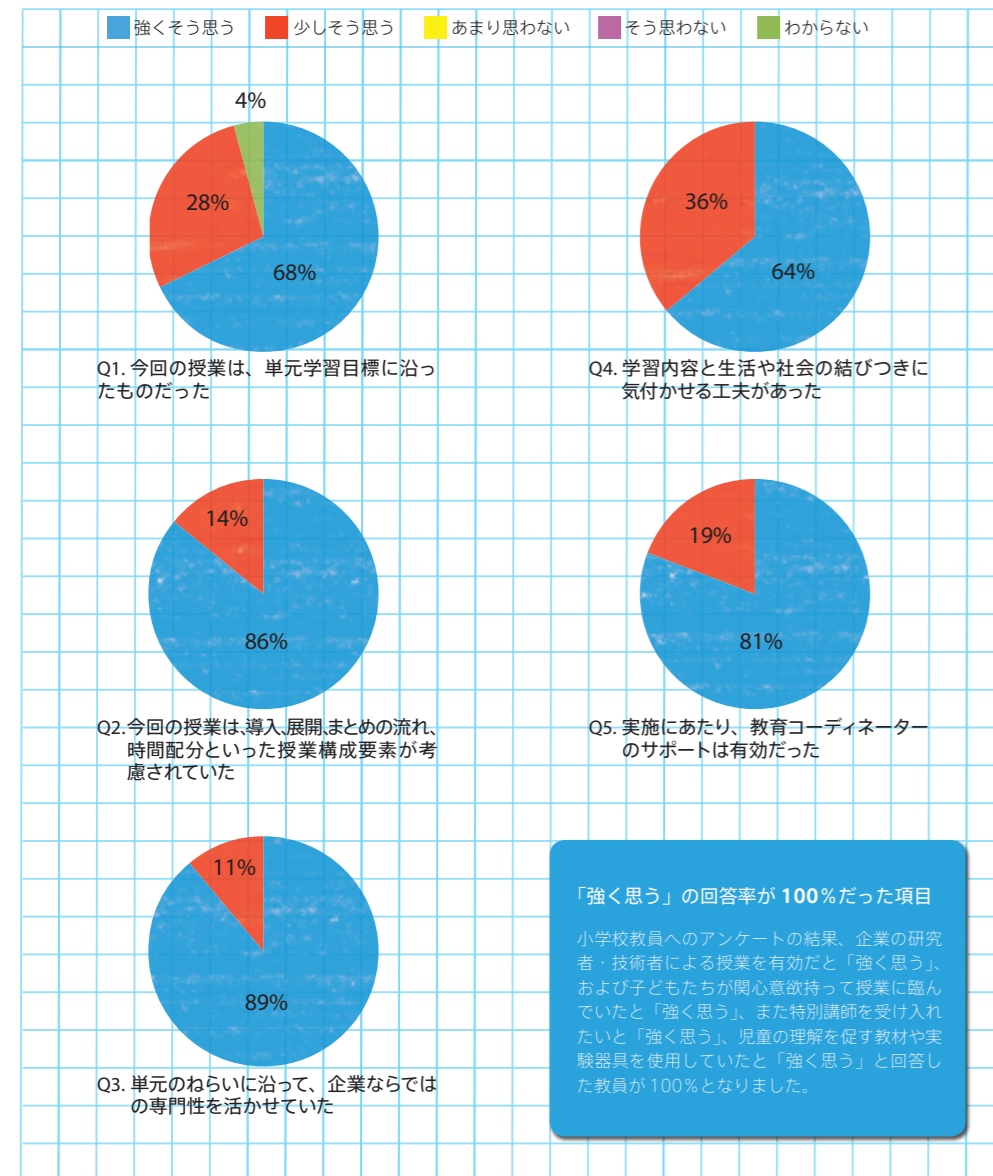
#### ◎会社を知ってもらえる

- ・身近に社会に役立つものを作っている会社があることを知ってもらえる。
- ・企業の取り組みを社会に活かせることや、生徒・先生・父兄の方々へ、企業の業務内容や特色を知ってもらえる点。
- ・また、その企業が何をしているか、どんな身近なものに使用されているかを知ってもらうことで、企業イメージが変わると思う。

#### ◎社員のスキルアップ・仕事への意欲向上

- ・チームワーク、メンバーの知識レベル等の確認につながる
- ・仕事への意欲の活性化、社員の意志共有
- ・プレゼンの実習と、急な質問等にも応える対応力などは養われると思う。また、やさしい言葉で理解してもらうのは大人でも同じ。
- ・弊社だけでなく社会全体を見る視点を養うことができる点、社内の部門をまたいだコミュニケーションの活性化に寄与できる点。
- ・参加した社員の自社への理解と愛着が深まる。
- ・疲れている研究者にとっては、自分が研究者を目指した原点を思い出すきっかけになる。

## 教員のアンケート結果



### 子どもの意欲を高める専門家との交流

小学校教員へのアンケートの結果、企業の研究者・技術者による授業を有効だと「強く思う」教員、および子どもたちが関心意欲持って授業に臨んでいたと「強く思う」教員が100%でした。その理由として、「授業が単元に沿っていた」「子どもの目線に立ってわかりやすく教えてくれた」「専門的な視点から話をしてくれるところが子どもたちにとって大きな刺激となった」といった意見が寄せられ、班に1人アシスタントが付き、専門的な知識をわかりやすく子どもたちへ伝えたところに高い評価をいただきました。

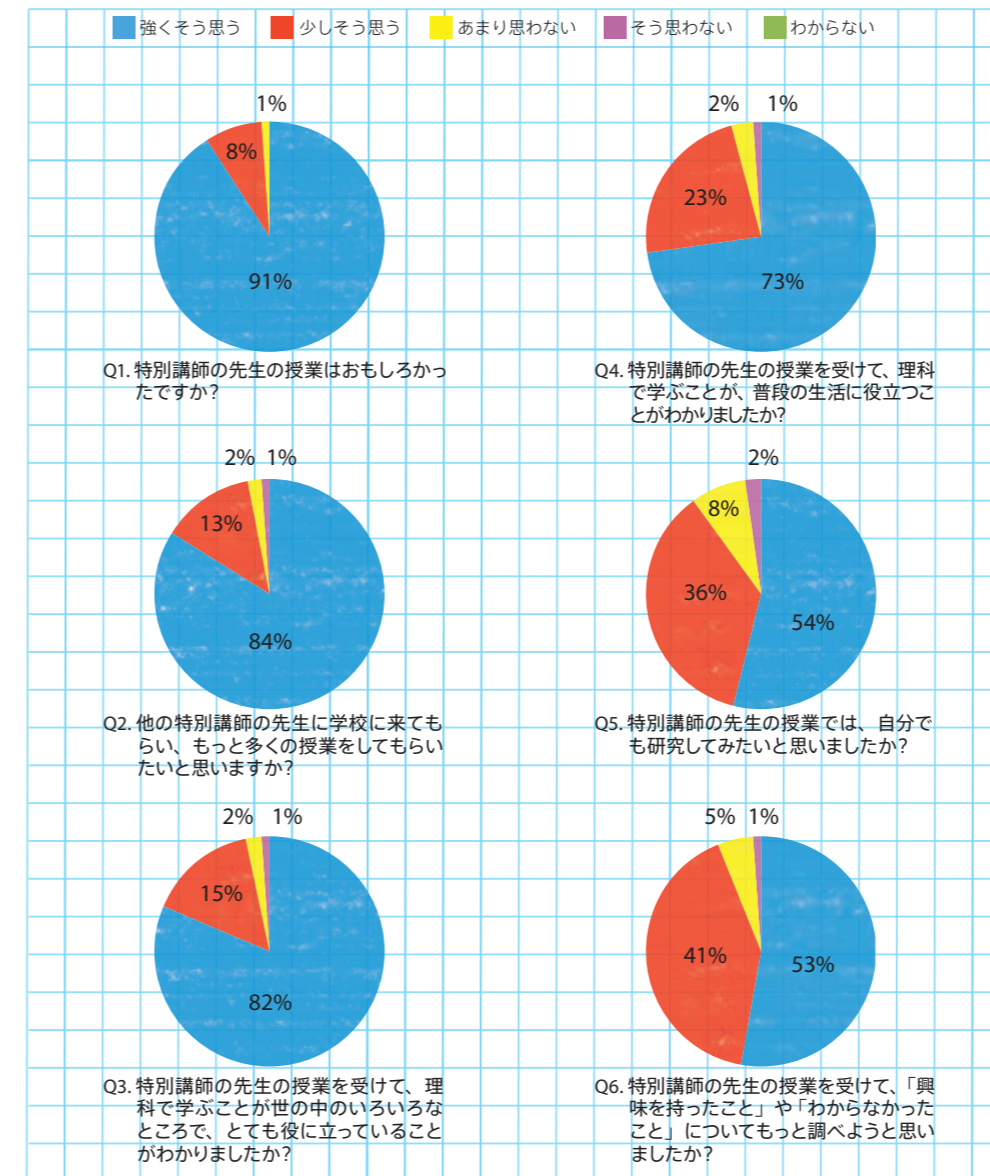
### 児童の興味を引き出す企業ならではの教材

「専門的な知識や、企業ならではの本物を見せてもらえるところが子どもたちの刺激となった」「子どもを飽きさせない視聴覚資料がよかった」といった意見も多くありました。学校では用意することのできない教材を使っただけの授業ができる点が、企業が教育に参加する大きな価値の一つと言えるでしょう。

### 企業の研究者・技術者だからこそ伝えられる「理科と実社会のつながり」

授業内容に関する質問では、子どもたちに「学習した内容が生活と結び付けられる内容だった」という評価が高くなりました。理科で学んだことが自分の生活とどのようなつながっていくのか、という視点は企業の研究者・技術者だからこそ伝えられるものではないでしょうか。

## 児童のアンケート結果



### 「本物」を見られる驚き

90%以上の生徒が「特別講師の授業は面白かった」「また来てほしい」と答えています。その理由として、「初めて○○を触っておどろいた」「知識では知っていたけれど、本物は初めて見た」といった意見が多く、学校ではできない実験や、教材が子どもたちの知的好奇心を駆り立てたようです。

### 研究者との密な交流を通じて新しい「発見」

今回はすべての企業で複数の特別講師が授業に参加し、班ごとにアシスタント講師がつきました。「研究でまだわかっていないことがあると聞いて、自分も調べてみたいと思った」「たくさん質問ができた」「知らないことがたくさんあって楽しかった」といった意見があり、専門的な知識の提供や、一人一人の学習意欲にこたえるチームティーチングができることも特別講師が授業に参加することの魅力です。

### 理科を学ぶことの意味を伝える

授業内容については、企業の研究者・技術者の授業により、「理科で学ぶことと、社会や普段の生活との関わり」を感じたという答えが多くなっています。企業の研究者が伝えるもっとも大きなメリットは、学校で学ぶ理科と身近な社会とのつながりを知り、理科を学ぶ意味を伝えることだと考えられます。